

錦江町 MIRAI づくりプロジェクト

錦江町では、厳しい現実を逆手にとって、「子や孫に希望溢れる未来を創り、繋ぐ」をコンセプトに、町民・行政・ヨソ者が協働しながら、「未来づくり」に取り組んでいます。その一貫として、ふるさと納税寄附金の「有効な使い道」について、町内有志の「百人委員会」での話し合いや町民・町出身者の皆さまからいただいたアイデアを反映し使い道を決定しています。



「未来志向なふるさと納税の使い道」

これまでの歩み

錦江町版百人委員会

公募により選ばれた8名の町民の方が「未来志向なふるさと納税の使い道」について平成29年3月から約5ヶ月間の協議を経て、ふるさと納税の「使うべき対象」を決め、これを基に町が平成29年9月「錦江町ふるさと納税寄附条例」を定めました。



錦江町版「百人委員会」の様子

- 条例で定めた選べる使い道
- ① 子どもなど将来の社会の担い手の育成に関する事業
- ② 地域経済の活性化に関する事業
- ③ 高齢者の社会貢献に関する事業
- ④ 移住・交流に関する事業

第2回錦江町「未来」想像・創造

コンテスト

「ふるさと納税の使うべき対象」に対して「どのように使うか」を、町内在住者や町出身者に公募しました。町内外から107件の応募があり、審査の結果15件の「ふるさと納税の使い道」候補が決まりました。これを基に、錦江町まち・ひと・MIRAI「創生協議会が実現に向けて「提言書」を作成し、町へ提出しました。



第2回錦江町「未来」想像・創造コンテスト受賞者

『過疎地ならではの困りごと』を抱える『子育て世代』に希望の光を

提出された提言書を基に、町内の子育て世代からの「安心して子育てができるように小児科誘致や遠隔診断・相談ができる仕組みを導入す

る。」という提案を受けて、スマートフォン等を活用して小児科医に相談ができる「小児遠隔医療相談導入実証実験」を実施しています。



「小児遠隔医療相談導入実証実験」記者発表

この取り組みにより、子育て世代には小児科医へ気軽に医療相談ができる安心感が生まれ、隣接市への小児科受診による交通費や移動時間等の負担軽減が期待されています。今後も町民や出身者の「未来への思い」や「提案」を積極的に施策に取り入れ、未来づくり意識の一体化に繋げていきます。